

テーマ3 魚貝類等の生息状況

(1) 三番瀬でみられる魚類

三番瀬でみられる魚類について、講師からの情報を基にリストを作成し、表-1に示した。リストにはこれまで三番瀬海域で実施された魚介類調査における確認種も合わせて示した。

この結果、三番瀬でみられた魚類は合計115種となり、今回新たに13種の魚類が追加された。

(2) 魚介類の生息状況

講師より提供された三番瀬における魚介類の生息状況に関する情報を以下に示す。また、アサリ、バカガイ等の漁場分布について図-3に示す。

① 漁獲の変化について

- ✚ 刺網の漁獲量についての資料：スズキ、セイゴが主体で年間25t(平成16年：南行徳漁協)、この他にカニ、ハゼも漁獲されている。
- ✚ カレイは最近獲れなくなった。(イシガレイは三番瀬を代表する魚種である)
- ✚ 今頃は卵の入ったカレイが獲れるが、育たなくなった。
- ✚ (上記に関連して)3~4月にかけて、カレイの稚魚がみられるが、なぜ育たないのか?3~4cmにはなる。10cm位のサイズまでは三番瀬にいた。それ以上育たない。原因については、カワウが大量に食害しているという人もいる。あるいは、貧酸素水塊の影響も考えられる。
- ✚ アカエイは増加しているが価値が低いいため漁獲していない。
- ✚ アナゴは今年、業者協議会で塩浜の前と江戸川で調査を実施した。市川では塩浜の北で2個体しか獲れなかった。浦安D地区の埋立前(昭和40年代)までは、その沖合でアナゴはたくさん獲れた。
- ✚ カニ網も最近は余り獲れない。但し、タイワンガザミが護岸前の滞

で獲れることがある。

- ✚ 昔は浦安で、アミを獲って佃煮にしていた。
- ✚ アユの稚魚については、毎年みかける。

② アサリ等の二枚貝類の漁獲について

- ✚ 3年前が大量に湧いた。4年前の9月の大風の時に一斉に産卵した結果、大量発生になった。
- ✚ アサリは急激な環境変化があると、産卵することがある。風向きや潮の流れによって、着底する場所が変わる。
- ✚ アサリは滞りに沿った洲のある所に一番定着する。今年は沖に沿って湧いた。3年前は全面に広がった。
- ✚ 漁協等でアサリ研究会があり、三番瀬の36地点で2ヶ月に1回、資源量調査をして、出荷の目安を付けている。沖に湧いた時は早く無くなる。
- ✚ 沖に湧いたアサリは、冬の大風や春一番が吹くと、表面に洗い出されて死んでしまう。湾内側は波が当たらないので、冬を越せる。
- ✚ アサリは、昔はおよそ3年に一回、大量発生していた。
- ✚ バカガイは、およそ4年に1回大量発生する。沖のサラサラとした砂の所が生息場所。今年は湧いた。
- ✚ 去年から、サルボウが多くなってきた。浅場のサルボウは小型で、7、8月に死亡する。沖の方のサルボウは残る。水温が25度を超えると死亡する。
- ✚ 近年ビノスガイが増えてきた。今年はカガミガイも多くみられる。
- ✚ ハマグりは今年は見ない。数年前は結構あった。三枚州の裏でバケツに半分位取れるらしい。そのあたりから浮遊幼生が流れてきているのではないかな?
- ✚ 去年、漁連でハマグリを入れたが、有る程度の成長はみられたが、その後、移動していなくなってしまった。また、アサリは外国産を入れても成長はするが、再生産はしない。

③ 最近の生物相の変化について

- 東京湾の生物相が、ここ数年変わってきていると思う。(いくら透明度も上がり、水質が改善されてきている)
- 変わった魚が見られるのは秋口。東京湾をぐるっと回ってくるのではないか。
- サキグロツメタガイは、あまりみられない。
- 一昨年、ヒトデが大発生(図-3 参照。)し、漁組がヤスで突いて駆除した。

④ アオサについて

- 水研では“アオサ(かわな)”について、月2回の分布調査を実施。11/15の調査では三番瀬全体で約5,000tにもなり、今年が多い。去年は多くても900t。理由は、南風が吹かなかったことと考えている。南風が吹くと市川航路に落ちたり、海浜公園に行ってしまう。
- 今は、アオサが腐って海底に溜まり悪い状態になっている。
- 猫実川河口前面の停滞水域(図-1 参照。)は、アオサの発生源となっている。
- 昭和62年にアオサの大発生があり、その後は環境が悪くなった。

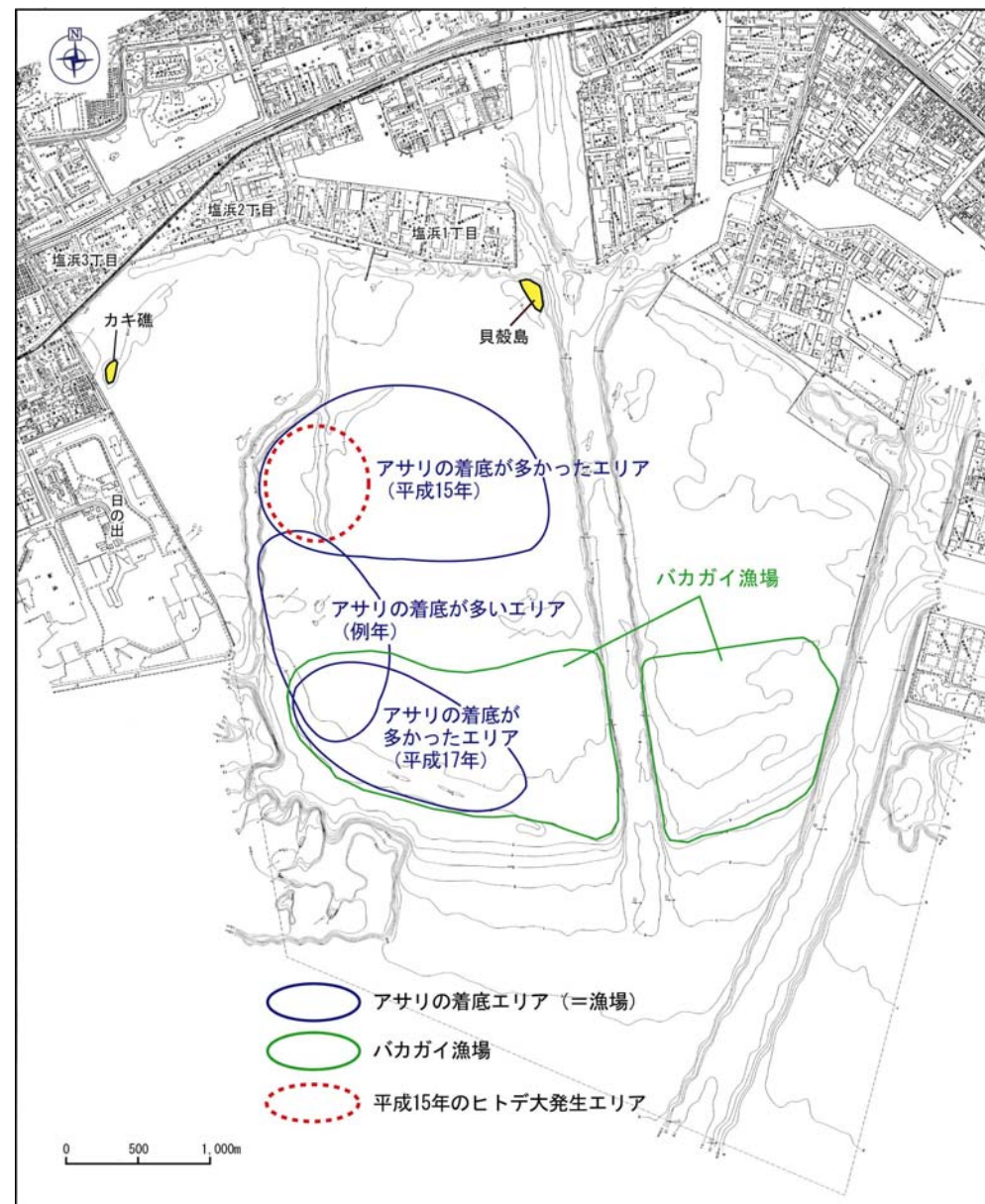


図-3 二枚貝の漁場分布等